

百里飛行場における航空機騒音実態調査

～ 飛行場周辺10地点の調査結果～

百里飛行場は昭和41年に航空自衛隊百里基地として設置されましたが、平成22年に茨城空港が開港し、以降は官民共用飛行場として運用されています。県では百里飛行場周辺の航空機騒音に係る環境基準の達成状況を把握し、航空機騒音に係る各種施策の推進を図ることを目的として、航空機騒音実態調査を行っています。

調査概要

百里飛行場の周辺10地点(短期測定地点)で、航空機の種類を識別できる専用測定装置を使って、百里飛行場から発着している航空機の騒音を測定しています。

※県では、この10地点の他に飛行場近隣の2地点(常時観測地点)において、騒音を連続測定しています。

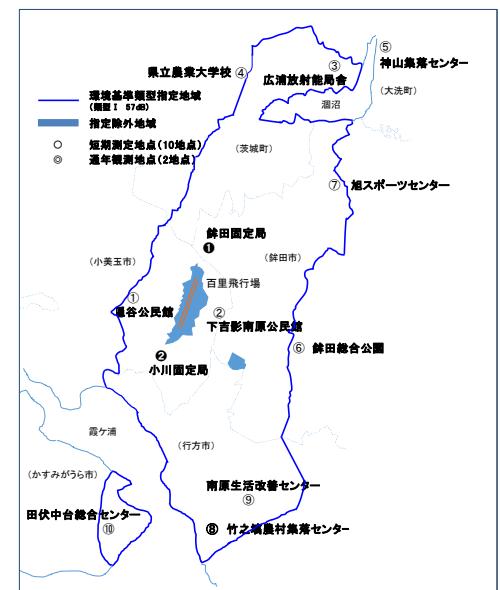
短期測定地点では、2週間測定した値を基に、年間の騒音の大きさを推定し、環境基準を達成しているかどうかを判断します。

騒音は、 L_{den} (エルデン、単位はdB)という指標で評価しています。

※平成25年4月から、WECPNLから L_{den} という評価方式に変更となっています。



測定の様子



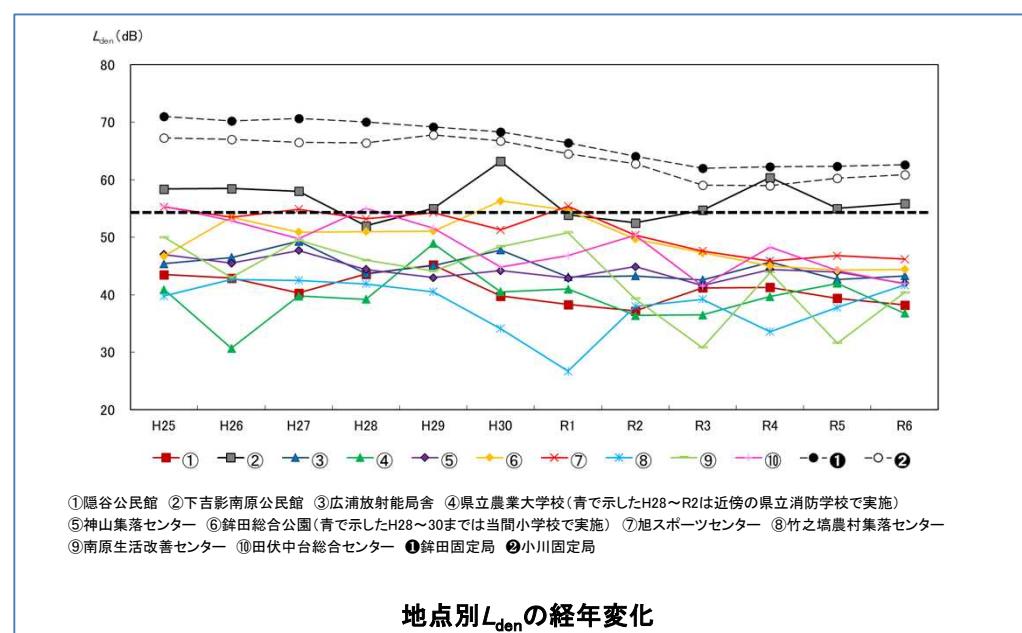
調査地点

地点別の経年変化

離発着が集中する滑走路南北の近傍に位置する常時観測2地点(①、②)では環境基準値を超過しており、過去4年間は横ばいの状況です。

周辺10地点(①～⑩)では、滑走路東の近傍に位置する②において環境基準を超過することもありますが、おおむね環境基準を達成しています。

また、評価指標がWECPNLから L_{den} に変わりましたが、両者を比較したところ、各地点ともほぼ同様に推移しており、環境基準の一部改正による影響は小さいと考えられます。



地点別 L_{den} の経年変化